

## ■■■演壇にて■■■

皆さん、おはようございます。三度のメシより佐渡が好き!!! 政風会代表の室岡啓史でございます。今定例会最初の一般質問の機会をいただきましたことに心より感謝申し上げます。コロナ禍においても、まずは気持ちから「前向きの島づくり」を念頭に置き、通告に従い、一般質問を致します。

なお、本日の配布資料は、「室岡ひろしと佐渡の明るい未来をつくる会」ホームページで見ることができますので、テレビ等をご覧の方は「室岡ひろし」でインターネット検索していただき、是非ともご確認ください。

深夜のテレビにかじりついているのは私だけではないはず。サッカーワールドカップ2022カタール大会の日本代表の大躍進に大変感激しました。予選では優勝経験国のドイツ・スペインに逆転で勝利、ベスト8をかけては前回大会準優勝国のクロアチアと互角に渡り合う日本代表の姿は本当に格好良かったです。また今大会は、サウジアラビアがアルゼンチンに、韓国がポルトガルに逆転勝ち、日本・韓国・オーストラリア・セネガル・モロッコが決勝トーナメントに進出するなど、アジア・オセアニア・アフリカ勢のレベルアップが目覚ましく、ジャイアントキリング(=番狂わせ)の試合がたくさんあることはサッカー勢力図の塗り替えを予感させます。昨今は、新型コロナウイルスや戦争、物価高など暗いニュースが多い中で、本当にワクワクしてたまらない素晴らしい時間を日本国民にもたらしてくれた森保監督率いる日本代表の皆さんに最大限の賛辞をお贈りしたいと思います。また、試合終了後のスタジアムで日本代表のユニフォームを着た日本人や外国人がゴミを拾っているシーンがテレビに映し出されております。選手の大活躍とサポーターの応援やゴミ拾いの行動という選手・サポーター両方が評価されているのは日本くらいではないかと大変誇りに思います。そして、世界最高のサッカー選手、アルゼンチン代表の神の子、メッシ選手も今大会で既に三度のゴールを決めておりますので、三度のメシより佐渡が好き!!! の精神で私も一般質問をがんばりたいと思います。

最後になぞかけを一つ。整いました〜◎ サッカーワールドカップカタール大会と掛けまして、新型コロナウイルスと解きます。

その心は・・・どちらも観戦/感染すると熱をハッスル/発するでしょう。

さて、去る5月20日に佐渡市がSDGs未来都市に選定されましたことを心よりお慶び申し上げます。新潟県内では、既に見附市及び妙高市が選定されており、この度、新潟県及び新潟市が佐渡市とともに選定されております。また、姉妹都市である入間市も今回同じタイミングで選定されました。SDGs未来都市に選定された佐渡市としては、文字通りの持続可能な佐渡づくりへと一層邁進していく必要があると考えます。

[https://www.chisou.go.jp/tiiki/kankyo/teian/sdgs\\_2022sentei.html](https://www.chisou.go.jp/tiiki/kankyo/teian/sdgs_2022sentei.html)  
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC1958A0Z10C22A5000000/>

国連が掲げる世界を変革する17の持続可能な開発目標、SDGsについては、私が1期目の2018年6月定例会一般質問にて佐渡市議会で初めて「SDGsの推進」について取り上げました。また、2019年9月定例会の一般質問にて「SDGs未来都市への名乗りを挙げるべき」と主張して、それから3年の月日を経て無事に選定が実現しました。佐渡ヶ島(Sa-Do-Ga-shi-ma)のローマ字表記が奇しくもSDGsの頭文字になっていることから、佐渡こそSDGsを推進すべしと訴え続けてきたことがようやく実ったことが大変嬉しく、そしてとても感慨深い思いであります。

そのことを記念して私の政策の一丁目一番地である「佐渡アイランド集落ツーリズム構想」を改め、「佐渡ヶ島(SDGs)集落ツーリズム構想」と名称変更致します。皆さんにおかれましては、お含みおきの程、よろしくお願い申し上げます。

佐渡の農山漁村の生業を大切に、集落でかけがえのない時を過ごす人と人とながっていく世界観、「佐渡ヶ島(SDGs)集落ツーリズム構想」の実現にむけて質問致します。

### ◎佐渡ヶ島(SDGs)集落ツーリズム構想の実現に向けて 【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】の計画に関する確認と提案

#### (1) SDGs未来都市に選定された佐渡としてのプライドについて

- ① SDGs(持続可能な開発目標)ツーリズムの推進
- ② DX(デジタルトランスフォーメーション)の進捗状況
- ③ GX(グリーントランスフォーメーション)の進捗状況
- ④ 「佐渡島(さど)の金山」の世界文化遺産登録の状況と今後の方針

#### (2) 持続可能な地域づくり・学校づくりについて

- ① 市民との意見交換会を経た佐渡市小学校・中学校再編統合計画
- ② 小中学校の小規模特認校制度の導入と学区再編の可能性
- ③ コミュニティスクールとGIGAスクール構想の成熟化
- ④ マイプロジェクトによる課題解決型探求学習の推進

#### (3) 産官学金労言(さんかんがくきんろうげん)連携の推進について

- ① 佐渡島(SDGs)天・地・人サイエンスプロジェクト2022の成果・評価と次年度以降の展望
- ② 宇宙甲子園(高校生を対象とした実践的な理工系教育)の誘致
- ③ 廃校舎等遊休公共施設の利活用による大学・企業誘致や地域の拠点づくり
- ④ 空き家再生による住まい・事業所・宿泊施設・飲食店等への利活用の推進
- ⑤ 1次2次3次産業の振興と総務省特定地域づくり事業協同組合制度の導入
- ⑥ リビングラボ(生活空間まるごと研究所)、佐渡ごトラボ(佐渡まるごと研究所)という考え方

(1) SDGs 未来都市に選定された佐渡としてのプライドについて

- ① SDGs（持続可能な開発目標）ツーリズムの推進
- ② DX（デジタルトランスフォーメーション）の進捗状況
- ③ GX（グリーントランスフォーメーション）の進捗状況
- ④ 「佐渡島（さど）の金山」の世界文化遺産登録の状況と今後の方針

(1) SDGs 未来都市に選定された佐渡としてのプライドについてお尋ねします。

①SDGs ツーリズムの推進についてお尋ねします。SDGs ツーリズム（サステナブルツーリズム）とは、持続可能な滞在型観光を意味します。地域の自然環境や文化、伝統などを守りながら、地域資源を持続的に保つことができるような旅行や観光業の取組みの総称であり、特に「環境」「文化」「経済」の3つの保護と発展が軸となった観光形態のことです。例えば、自然エネルギーによって充電された電気自動車で佐渡の魅力あふれる集落を巡り、そこに住む人と触れ合う旅。あるいは、宿根木や相川京町通りなどの古い町並みという次世代に伝えるべき風景を肌で感じたり、宵の舞や鬼太鼓などのお祭りに参加し文化に触れる旅、などがSDGs ツーリズムとして考えられます。今後、佐渡市としてもSDGs ツーリズムを推進していく必要があると考えますが、佐渡市の見解をお聞かせください。

【二次質問：スライド02】

・世界文化遺産登録を目指す「佐渡島（さど）の金山」の相川エリアの観光地域づくり推進役として相川車座の取組みに期待しております。また、宿根木に続き、小木町の重伝建（重要伝統的建造物群保存地区）を目指す取組みにも期待しております。佐渡市としても相川から真野、小木へとつながる道を「金の道」として、各地域の観光地域づくりを推進する必要があると考えますが、市長のお考えをお聞かせください。

・特に遠隔地の限界集落を消滅集落にしない努力が必要と考えます。アンチコンパクトシティの取組みが必要と考えますが、市長の見解をお聞かせください。

【二次質問：スライド03】

・娘と共同開発したSDGs 17の目標について、覚え方の呪文を唱えます。  
貧・飢・健・教・ジェ・水  
エネ・成・技・不平等・まち・責任  
気候・海・陸・平和・パー  
<http://hiroshimurooka.com/sdgs2022>

・佐渡ヶ島のクロスワードパズルのタテヨコのキーワードは、佐渡の進むべき道を示す羅針盤だと思います。佐渡市としてもこの羅針盤を掲げ、島内外に情報発信すべきと考えますが、市長の見解をお聞かせください。  
<http://hiroshimurooka.com/sadogashima>

・SDGs ツーリズムとは、持続可能なツーリズムのことであり、集落を歩くツーリズム、環境を学ぶツーリズム、文化に触れるツーリズムなど既存の取組みも既にたくさんあると思います。佐渡市として、SDGs ツーリズム、サステナブルツーリズムと銘打って体験プログラム化する必要があると考えますが、いかがでしょうか？

②DX（デジタルトランスフォーメーション）の進捗状況についてお尋ねします。DXとは、デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革することです。また、既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすことです。佐渡市においてはデジタル分野の外部人材も2名着任し、庁内のデジタル環境改善はもとより、佐渡市民への貢献が大いに期待される所です。DX推進について、どのような進捗状況で、今後はどのようにしていこうとしているのか佐渡市の見解をお聞かせください。

【二次質問：スライド04】

- ・スマートフォンを活用したDXの推進はできることがたくさんあると思います。知らないことをスマホに話しかけるやり方の習得、マイナンバーカード発行によるマイナポイントを契機とした電子マネーの利用、Ma a Sの取組みの一環としての佐渡汽船シャトルの利用などが挙げられます。
- ・長岡市では周辺部の地域を中心にスマホ教室を市が民間事業者と連携して行っております。最近では、地元の中学生在が高齢者の方にスマホの使い方を教える中で、祖父母世代と孫世代との多世代交流が生まれる取組みが行われております。佐渡でもコミュニティスクールの活動と絡めて実現したり、スマホの使い方なども含めた市民向けのデジタル講座＝DXセミナーを開催するべきと考えますが、見解を伺います。

③GX（グリーントランスフォーメーション）の進捗状況についてお尋ねします。GXとは、太陽光発電や風力発電など温室効果ガスを発生させない再生可能なクリーンエネルギーに転換し、経済社会システムや産業構造を変革させて成長につなげることです。地球温暖化対策の1つであるカーボンニュートラルを基軸としたグリーン成長戦略として、世界中で注目を浴びるようになってきております。花角知事が掲げる「新潟県自然エネルギーの島構想」の推進とも大きく関わりがあると考えます。前述のDXは手段であり、GXは目的と捉えることができます。GX推進について、どのような進捗状況で、今後はどのようにしていこうとしているのか佐渡市の見解をお聞かせください。

【二次質問：スライド05】

- ・佐渡の発電所の総出力は93MW。佐渡・粟島沖での浮体式洋上風力発電が稼働すると将来的には300～500MW級になると想定されております。そして、化石燃料社会から水素社会へとGXが推進されるものと期待しております。
- ・脱炭素先行地域に選定された佐渡市として、ソーラー関連では、今年度からPPAモデルを活用して、公共施設の太陽光発電システムを推進する予定だと理解します。また、バイオマス発電380kwの建設も想定されておるとは思いますが、進捗状況はいかがでしょうか？
- ・新潟県自然エネルギーの島構想は、浮体式洋上風力発電なども含めてなかなか動きが見えないように感じますが、県との連携はどういう状況なのか説明を求めます。

④「佐渡島（さど）の金山」の世界文化遺産登録の状況と今後の方針についてお尋ねします。去る、8月7日、末松前文部科学大臣がご来島され、構成資産の現地視察をされました。また、9月21日には永岡文部科学大臣がご来島され、相川と西三川を視察されました。報道によると、末松前大臣との引き継ぎでは、「一番に金山のことを」そして永岡大臣は「はい」と力強く応えさせていただいた」とのことです。そしてまた、先日の新聞報道では、ロシアが世界遺産委員会の議長国を辞任し、世界遺産委員会開催に向けて一步前進する可能性が帯びて参りました。現状の課題を何と捉え、今後の方針として登録に向けた最善の努力としては、何をすべきと理解しているのか、登録へのスケジュールについて、佐渡市の見解を伺います。私は、市民のより一層のご理解が必要になると考えます。すなわち、「佐渡島（さど）の金山」の顕著な普遍的価値（OUV：Outstanding Universal Value の略）「国家間の境界を超越し、人類全体にとって現代及び将来世代に共通した重要性をもつような、傑出した文化的意義・自然的な価値」の（こと）をご理解いただく啓発活動をさらに強化し、ご家族ご友人に伝えていただくことで市民の機運を醸成していくべきではないでしょうか？

【二次質問：スライドなし】

- ・金銀山ガイド、トキガイド、ジオパークガイド、佐渡ガイドなど枠組みを広げてガイドのスキルアップを行い、ゆくゆくはアプリ化して地域の情報化を行うべきと考えます。金銀山ガイドはコロナ禍でなかなか実行ができていないと思いますが、今後どうする予定なのでしょう？
- ・小木や相川、両津などのふれあいガイドの方が活動をされております。集落ガイドさどんぼの取組みを復活し強化する努力が必要と考えますが、いかがでしょうか？

## (2) 持続可能な地域づくり・学校づくりについて

- ① 市民との意見交換会を経た佐渡市小学校・中学校再編統合計画
- ② 小中学校の小規模特認校制度の導入と学区再編の可能性
- ③ コミュニティスクールとGIGAスクール構想の成熟化
- ④ マイプロジェクトによる課題解決型探求学習の推進

(2) 持続可能な地域づくり・学校づくりについてお尋ねします。

①市民との意見交換会を経た佐渡市小学校・中学校再編統合計画についてお尋ねします。内閣府として、令和5年度の早い時期に「こども家庭庁」を設立し、具体的なこども・子育て支援政策を実行すべく準備を開始しておるところと理解しております。少子化・育児・保育・虐待・教育・健康・いじめ・貧困など様々な問題を解決する「こどもまんなかの社会」の実現を目指しております。少子高齢化の進む佐渡市においては、小中学校の再編統合を進めざるを得ない状況にあることは理解しているつもりですが、そこには「こどもまんなか」という理念が最重要であることは言うまでもありません。5月～7月まで全31か所での市民との意見交換会は、延べ270名の参加があり、平均8.7人、最小0人～最大47人の参加という状況であったと思います。この3か月間で佐渡市教育委員会が得た気づきや課題を何と捉え、今後どのように進めていくつもりなのか、見解を伺います。

【二次質問：スライド06】

- ・小中学校の再編統合がどのようなプロセスを経て進んでいくのか、タイムスケジュールと流れについて説明を求めます。
- ・前期と後期で小中学校がそれぞれいくつ再編統合され、それぞれどこを校舎として活用していく予定なのでしょうか？また、廃校舎はいくつ発生してしまうと考えているのでしょうか？

②小中学校の小規模特認校制度の導入と学区再編の可能性についてお尋ねします。小規模特認校制度とは、少人数の学校で、自然環境の活用や地域住民との交流など、特色ある学校経営を行い、一定の条件のもとで、他の通学区域からの通学を許可する制度のことです。佐渡市内では小中連携校として内海府・前浜・高千・松ヶ崎小中学校が運営されており、全島的に島外から親子等での移住を呼び込むいわゆる「島留学」のいっそうの推進が必要と考えます。そして、国中地域等の不登校児童・生徒のためにも、国中の小中学校にそれぞれ1校だけでも小規模特認校制度や不登校特認校制度を活用した学校を整備する必要があるのではないのでしょうか？また、1島1市となって19年が経過した現状においては、旧市町村の地域性に捉われすぎない学区再編の検討も必要なのではないかと思えます。これらのことについて、佐渡市教育委員会の見解を伺います。

【二次質問：スライド07】

- ・地域の文化や自然に触れ合う「小規模特認校制度」のメリット・デメリットをどう捉えておりますでしょうか？
- ・静岡県藤枝市のように地域の文化や自然に触れ合う「小規模特認校制度」や全国的に増え始めている「不登校特認校制度」の活用をするべきではないかと思えますが、いかがでしょうか？

【二次質問：スライド08】

- ・学校再編統合の方向性、原則論について説明してください。
- ・10万年前は国中平野は海の底にあり、隆起する中で潟端と上横山地域が繋がりはじめ平野が形成されていきました。すなわち、両津吉井小学校近辺は海拔が高く、吉井という地名からも災害リスクが低い地域であると言えます。有事の際の避難拠点ともなり得ると思っております。
- ・また、トキエアの佐渡就航が期待されますが、実現すれば両津吉井地域は駅前になります。駅前になれば、周辺地域にお店などが増え、子育て世代も含めて住む人が増えると私は予測しています。国中地域において、もしも両津吉井小学校がなくなってしまうと4km圏内のエリアを遥かに超える通学区域が発生してしまうことになり、危惧しておりますが、教育委員会の見解をお聞かせください。
- ・花角知事は、「住んでよし、訪れてよしの新潟県」づくりを目指して再選されました。佐渡市としては、「住んで吉井、訪れて吉井の佐渡」づくりを目指さなければならないと思えますが、市長のお考えをお聞かせください。

③コミュニティスクールとGIGAスクール構想の成熟化についてお尋ねします。コミュニティスクールとは学校運営協議会制度のことで、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組みです。佐渡市においては令和2年に全小中学校35校が活動をスタートさせております。課題を何と捉え、成熟化を図るためにはどうしたら良いと考えているのでしょうか？また、GIGAスクール構想とは、「子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現」のことで、佐渡の小中学校においても、学校内のインターネット環境の整備も完了していると理解します。令和3年から全児童・生徒にタブレットが貸し出されており、教育における活用が大いに期待されております。今後は、テレワーク推奨の中、自宅等で学習する、仕事をするという傾向はさらに強まっていくものと予測しておりますが、GIGAスクール構想の進捗状況と今後の成熟化をどう捉えているのか佐渡市教育委員会の見解を伺います。

【二次質問：スライド09】

・私は、文部科学省の教育政策を評価します。コミュニティスクールは、ローカル人材の育成。GIGAスクール構想はグローバル人材の育成。併せて地球規模で考え、地域で行動する「グローバル人材」の育成が可能と考えます。そこで、探究的な学習やマイプロジェクトの一層の推進が必要と考えますが、教育委員会の見解を伺います。  
・北海道高等学校遠隔授業配信センター-T-base のように、小中学校や高校でリモート授業を今後推進していく必要があると考えますが、いかがでしょうか？

↓  
北海道教育委員会は、小規模校や離島にある高等学校においても、大学進学から就職までの多様な進路希望や習熟度別学習に対応した教科・科目の開設が可能となるよう、遠隔授業の配信機能を集中化した北海道高等学校遠隔授業配信センター（愛称：T-base（ティーベース））を開設する学校として北海道有朋高等学校を指定しました。指定された有朋高校において、令和3年4月にT-baseを開設し先進的な遠隔授業の取組を展開していきます。

<http://www.t-base.hokkaido-c.ed.jp/>

④マイプロジェクトによる課題解決型探求学習の推進についてお尋ねします。「マイプロジェクト」とは、身の回りの課題や関心をテーマにプロジェクトを立ち上げ、実行することを通して学ぶ、探究型学習プログラムのことです。小さくても実際に起こす「アクション」と、プロジェクトに対する「主体性」を大切にします。学びのプロセスを通して自分自身の興味関心の発見や、他者との協働、社会の価値発見・創造に向かう姿勢が育まれ、正解がない中で試行錯誤し、探究することで、未来への創造力を養うトレーニングとなります。「全国高校生マイプロジェクトアワード2021 (<https://myprojects.jp/>)」が動画配信されており、私自身も見て学んでおるところです。また、佐渡市内でのマイプロジェクトを進める若者と小中高生の集まりにも複数回参加させていただいており、社会人になるまでの成長過程において、マイプロジェクトを熱心に取り組むことの必要性を肌で感じております。そして社会に出てか

らは、仕事の一環としてもマイプロジェクトを推進していくべきと強く思っているところでもあります。これらのことについて、小中高の学びの過程としてマイプロジェクトをどう捉えているのか、佐渡市教育委員会の見解を伺います。

【二次質問：スライド09】

・探求的な学習やマイプロジェクト推進のために、佐渡市教育委員会が主体性を持ち、佐渡教育コンソーシアムや市内の小中学校や高校と連携して進めるべきと考えますが、いかがでしょうか？

佐渡市教育大綱及び佐渡市教育振興基本計画令和2年9月佐渡市・佐渡市教育委員会  
3 基本方針

(1) 佐渡を知り、愛し、誇りとし、社会的自立を目指す人づくりの推進

○現状と課題

ここ数年の各種学力調査の結果は、小学校はほぼ全国平均となっていますが中学校の一部教科に課題が見られます。体力面では、小・中とも概ね良好な状況にあります。自己肯定感や将来の目標設定については、肯定評価の割合が増加傾向ですが、まだ全国平均には達していません。

○今後の方向性

引き続き「確かな学力の育成」「豊かな人間性や社会性の育成」「健康増進・体力向上」「キャリア教育の推進」「教育環境の整備」等に取組みます。対象を幼保、小、中、高、大学生等とし、教育委員会と市長部局が連携して学校教育の充実に努めます。

(3) 産官学金労言（さんかんがくきんろうげん）連携の推進について

- ① 佐渡島（SDGs）天・地・人サイエンスプロジェクト 2022 の成果・評価と次年度以降の展望
- ② 宇宙甲子園（高校生を対象とした実践的な理工系教育）の誘致
- ③ 廃校舎等遊休公共施設の利活用による大学・企業誘致や地域の拠点づくり
- ④ 空き家再生による住まい・事業所・宿泊施設・飲食店等への利活用の推進
- ⑤ 1次2次3次産業の振興と総務省特定地域づくり事業協同組合制度の導入
- ⑥ リビングラボ（生活空間まるごと研究所）、佐渡ごとうボ（佐渡まるごと研究所）という考え方

(3)産官学金労言（さんかんがくきんろうげん）連携の推進についてお尋ねします。

産官学金労言とは、地方創生に取り組む連携態勢を表す6文字のことです。「産官学」は、産業界、官公庁、大学の3者を指します。「金労言」は、金融機関、労働団体、言論界を表し、これら6者が中核になるべしという号令を意味します。佐渡市としても産官学金労言連携の推進が必要であると確信しており、一定の連携は進んでいるものと思いますが、課題と今後の方針について分析する必要があると考えます。



①佐渡島（SDGs）天・地・人サイエンスプロジェクト 2022 の成果・評価と次年度以降の展望についてお尋ねします。去る7月30日（土）、31日（日）アミューズメント佐渡において、佐渡の子どもたちにサイエンスの面白さを知ってもらい、好奇心を育むことを目的として開催されたイベントです。2日間で延べ780人ほどのご来場があったと聞いております（1日目は、4部構成の講演会・トークショーで、延べ300人の参加があり、2日目は、5部構成の講演会・トークショーで、延べ280人、8種類の体験型ワークショップで、延べ200人の参加があった）。9月から佐渡市ケーブルテレビにおいて、講演会が順次録画放送されておりますので、再度拝見したいと思います。そして次回開催は、2023年7月29日（土）、30日（日）を予定しているそうです。サイエンスプロジェクトについての成果・評価と次年度以降の展望について佐渡市の見解を伺います。また、毎年夏に開催されるアース・セレブレーションやさとの島銀河芸術祭、薪能、世界遺産関連イベントなどが、「響く島。SADO」プロジェクトという傘の下に入っておりますが、そこにサイエンスプロジェクトも加えることで、夏休みの期間中に佐渡において、島内外の多世代の皆さんが佐渡を楽しみ、学び、遊ぶプログラムを総合的に発信していくことができると確信しておりますが、いかがでしょうか？

【二次質問：スライド10】

- ・副市長、教育長の参加した感想をお聞かせいただきたいと思います。
- ・毎年夏に開催予定のサイエンスプロジェクトを持続可能な事業とするために佐渡市教育委員会が主体性を持ち、民間企業や言論機関、佐渡教育コンソーシアム、市内の小中学校や高校と連携して進めるべきと考えますが、いかがでしょうか？市長のお考えをお聞かせください。

②宇宙甲子園（高校生を対象とした実践的な理工系教育）の誘致についてお尋ねします。宇宙甲子園とは、2005年から大学生向けの実践的工学教育として運用実績がある能代宇宙イベントをプロトタイプとし、高校生を対象とした実践的な理工系教育を実施するイベントのことです。前述のサイエンスプロジェクト2022をきっかけに次年度佐渡で実施しようという機運が醸成されつつあると理解しておりますが、誘致の可能性と意気込みについて佐渡市の見解を伺います。

【二次質問：スライド11】

- ・資料は、和歌山大学教授で宇宙甲子園事務局長の秋山先生からご提供いただいたものです。
- ・来年6月頃に高校のグラウンド等で、宇宙甲子園のロケット甲子園などトライアルイベントが開催される可能性があります。佐渡市教育委員会が主体性を持ち、佐渡工業会や佐渡教育コンソーシアム、市内の小中学校や高校と連携して進めるべきと考えます。形式にこだわらず、佐渡でできる航空宇宙関係の離島版教育イベントが実現できないかと思いますが、いかがでしょうか？

③廃校舎等遊休公共施設の利活用による大学・企業誘致や地域の拠点づくりについてお尋ねします。前述の学校再編統合が進むことにより、向こう10年間で10の小中学校が廃校となる見込みです。また、現状では旧両尾小学校や旧川茂小学校などおよそ10の小中学校が廃校舎として十分に活用されないまま眠っている現状があります。そこで、文字通りの産官学連携により大学・企業誘致や地域の拠点づくりを推進し、活力ある地域づくりを推進すべしと考えますが、佐渡市の見解を伺います。

【二次質問：スライド12】

・廃校舎等遊休公共施設の利活用による大学・企業誘致や地域の拠点づくりの推進が必要と考えます。人口減少対策調査特別委員会で、島内団体との意見交換を重ねる中で、空き家はあるがUターンの方々が住める家が少ないという課題をお聞きします。また、働くところ・住むところが必要と異口同音におっしゃいます。空き家を活用して集落連携型のお試し住宅を全島に増やしていく必要があると考えますが、見解を伺います。

【二次質問：スライド13】

・両津港から車で約13分という好立地の旧両尾小学校を活用できないかと思えます。大学のサテライトキャンパス化をするなり、地域づくりの拠点とするなり、民間事業者がいれば高齢者のためのシェアハウス（CCRC）的なこともできるかもしれません。まずは、全国の成功事例を研究すべしと考えますが、いかがでしょうか？  
・公共施設等総合管理計画においても、2030年までに行政財産を3割減（面積ベース）とする方針が示されております。普通財産化すれば、あとは知りませんということにはならないと思えますが、見解を伺います。

④空き家再生による住まい・事業所・宿泊施設・飲食店等への利活用の推進についてお尋ねします。2019年に金井能楽堂にて特定非営利活動法人日本民家再生協会主催第22回「民家フォーラム2019」が開催され、空き家利活用の機運を醸成する好機の一つとなったと感じております。私は、利活用可能な空き家3,000棟ある佐渡の空き家を燦然（さんぜん）と輝かすべく、空き家・廃旅館・廃校舎などをリノベーションして、移住者も含めてアクティブシニアの皆さんの住まいとしたり、集落ガイドや生活必需品購入の拠点として利活用できないかと考えます。地元の方が協議会を作り、廃校利活用による地域づくりの拠点としたり、佐渡市雇用機会拡充事業補助金の課題解決型に空き家利活用部門を創設することにより、地域の空き家を活用していくように佐渡市として方向性を示し、支援するべきであると考えますが、見解を伺います。

【二次質問：スライド14】

・令和2年の調査では、全島には4,800棟の空き家があり、外見上で利活用可能な空き家だけでも2,600棟あるとの報告があります。佐渡市雇用機会拡充事業を活用した成功事例も出てきました。SDGs推進の観点からも空き家利活用の機運をさらに高め、再生・活用していくべきと考えますが、いかがでしょうか？

⑤ 1次2次3次産業の振興と総務省特定地域づくり事業協同組合制度の導入についてお尋ねします。産業振興は佐渡としての至上命題でありながら、限られた人材に頼らざるを得ない離島では、様々な分野で人材不足に陥っております。また、通年雇用が難しい業種が少なくないという課題も抱えております。特定地域づくり事業協同組合制度とは、地域人口の急減に直面している地域において、農林水産業、商工業等の地域産業の担い手を確保する事業協同組合に対して財政的、制度的な支援を行う制度です。特定地域づくり事業とは、マルチワーカー（季節毎の労働需要等に応じて複数の事業者の事業に従事）に係る労働者派遣事業等のことです。例えば、お試し住宅に住みながら、お試し就業していただく中で、自分にあった職種を見極めて、転職へとつなげていく。佐渡市雇用機会拡充事業を活用して起業創業するなど、佐渡で羽ばたいていただくための足掛かりとして、下支えの機関としての機能発揮が期待されます。雇用問題の課題解決の一助になると考えますが、佐渡市の見解を伺います。

【二次質問：スライド15】

- ・先般、鳥取県智頭町と島根県海士町から講師をお招きした地域づくりセミナーを聴講させていただきました。そこでは、事務局機能が重要であり、働く人目線での派遣事業実施が成功の鍵と認識しました。佐渡市として立ち上げるスケジュールと派遣職員の数、職種、活動エリア等はどのように想定しているのか、説明してください。
- ・佐渡市内における有効求人倍率は令和4年9月時点で、1.45と高い数値となっており、各業界の企業は人材獲得に苦心している状況にあると言えます。求人と求職とのミスマッチを改善する必要があると、まずは佐渡市内でどのような働く場所があるのか情報発信を強化する必要があると思います。全国では既に60くらいの特定地域づくり事業協同組合が立ち上がっております。持続可能な組合とするためには、他との差別化が必要と思いますが、佐渡市ならではの組合としての特長づけをどのように行うつもりなのでしょうか？「さどふく」など愛称をつけるべきと考えます。

⑥リビングラボ（生活空間まるごと研究所）、佐渡ごとラボ（佐渡まるごと研究所）という考え方についてお尋ねします。リビングラボとは、「Living（生活空間）」と「Lab（研究所）」を組み合わせた言葉であり、その名の通り、研究開発の場を人々の生活空間の近くに置き、生活者視点に立った新しいサービスや商品を生み出す場所を指す言葉です。場所だけでなく、サービスや商品を生み出す一連の活動を指すことも多いと言われております。先般、新潟大学主催リビングラボオンラインセミナーを聴講させていただきました。佐渡版リビングラボに愛称をつけて、例えば「佐渡ごとラボ（佐渡まるごと研究所）」等イメージ共有に努める手法が必要だとも思います。佐渡市でこそ、推進すべき政策となると考えますが、見解を伺います。

【二次質問：スライド16】

- ・リビングラボの取り組みについて、ワークショップをおこなっていて、昆布とわかめの商品化など既に3つのプロジェクトが立ち上がっていると聞いているがどのようなものなののでしょうか？「佐渡ごとラボ」など愛称をつけるべきと考えます。

以上で、一回目の質問を終了します。